

令和6年度第5回国分寺市環境審議会議事要約（案）

日 時 : 令和7年2月19日(水) 午前10時～12時5分
会 場 : 市役所会議室 201

○会議次第

1. 開会
2. 議事
 - (1) 第三次国分寺市環境基本計画の検討について
 - (2) 第三次国分寺市環境基本計画実施計画の検討について
3. その他
 - (1) 今後の予定
4. 閉会

出席委員 : 中西由美子会長、大野政智副会長、大友美輪委員、益子美賀委員、和田淳委員、野澤淳史委員、六車貴美子委員、古後康之委員、伊藤皓子委員 計9人
欠席委員 : 竹内大悟委員、荒井雄一委員、田中貴浩委員 計3人
傍聴者 : なし
事務局 : まちづくり部まちづくり計画課5人(部長、課長、係長、担当2人)
委託事業者2人

配布資料

資料1 - 1… 第三次国分寺市環境基本計画(案)に関するパブリック・コメント及び環境ひろばからの意見概要と反映状況について(原案)
資料1 - 2… 第三次国分寺市環境基本計画(案)
資料2 … 第三次国分寺市環境基本計画実施計画(案)

参考資料1… 第4回環境審議会終了後の追加意見について
参考資料2… 国分寺市環境基本計画及び国分寺市環境基本計画実施計画について(答申)(案)
参考資料3… 今後の策定スケジュール(案)

令和6年度 第4回国分寺市環境審議会議事要約

1. 開会

- まちづくり計画課長あいさつ
まちづくり計画課長より会の成立を報告した。

2. 議事

- 配布資料の確認
事務局より配布資料の確認を行った。

(1) 第三次国分寺市環境基本計画の検討について

(事務局より資料 1-1、1-2 を説明)

中西会長：明らかな言葉の間違ひは対応済みとのことだ。前回議論のあった野川については施策2-2-3に新たに「水環境の保全・回復」の中、また、コラムを追加するなど対応されている。その他、戦略0を最初に変更している。これまでで意見はあるか。

伊藤委員：項番18は、ホームページのアクセス数の目標が3,500回/年から5,000回/年とかなり増えているが、どのように数値を出したのか。修正前は毎年100回増としていたと思う。

事務局：年100回増の計算でアクセス数の目標値を算出していたが、ご意見を踏まえ、年400回ずつ増やす想定で上方修正した。情報発信を課題として挙げていることから、情報の見やすさ、アクセスのしやすさ、戦略的な情報発信に力を入れていきたいと考えている。今後統括ページの改善や、イベントの参加募集だけでなく、開催後記も掲載するなど、読み物としてのコンテンツも充実していきたいと考えている。

中西会長：常に最新情報にしていれば、簡単に達成できる可能性もあると思うが、管理する努力が必要だと思う。

古後委員：他自治体でも蓄電池が普及しているので、補助金の制度案内を見る回数が増えてアクセスも増えると思う。そういった内容へのアクセス数もこのカテゴリーに含まれるのか。アクセスが多い時期などはあるか

事務局：補助金に係るページへのアクセス数も含む。また、アクセス数の推移については、新築住宅も補助金の対象にしていることから、これまでは年度末の3月の申請が多かったが、昨年度から既存住宅も申請が増えて、申請の時期は平準化していると感じる。

中西会長：平準化ということは太陽光パネル等に関心がある層が増えている状況なのか。

事務局：既存住宅も含め、申請件数は増えており、関心は高まっていると感じる。蓄電池についても、太陽光パネルと同時に設置しなかった住宅において、蓄電池を設置するケースが増えているように思う。

野澤委員：野川関連のパブリック・コメントの件数が多い。前回もそう感じたが、野川関連の意見を出している方の年齢層や属性などは把握しているか。現状、野川のコンクリート護岸について触れている方が多いので、そこに熱量のある、似たような属性の方がパブリック・コメントをしているのではないかと思う反面、声の大きい意見なので反映する必要があるかとも思うが、やはり野川が前面に出すぎており、偏った意見に思えて危惧している。率直に言ってさほど重要な部分だと思えない。

事務局：パブリック・コメントは、市内在住・在学などが意見提出の要件があり、それを確認する

ための住所等は確認している。ただし年齢や性別などは収集する必要がないことから属性は確認できない。市民活動団体の中で熱心に活動されている人たちがいることは把握している。

大野副会長：ホームページの運用管理はまちづくり計画課が行うのか。

事務局：環境基本計画の所管として全体はまちづくり計画課が管理するが、様々な分野にまたがっているので、他課と協力しながら進めていく。

大野副会長：今のホームページはそもそもメニューが見つからない。そのためキーワードやページ番号検索をしているが、目的のページに中々アクセスできない。環境のテーマからすぐに環境関係のページ繋がらないと目標の5,000回は無理だと思う。

事務局：ご指摘いただいたことは、まさに課題として認識している。まずは環境分野に関わる課で構成を練り直し、ホームページの全体の管理をしている所管課とも調整したいと思う。まずは分かりやすいカテゴリーで再編するところから始めたい。

中西会長：環境分野だけでなく市全体で調整しないと解決が難しいかと思う。アクセス数が多ければ検索エンジンの上の方に出てくるので、「国分寺市」と「環境」というワードを検索したら上の方に出てくるようになると良い。

古後委員：市のホームページにアクセスしてみたが、「くらしの情報」から入ると比較的環境のページにアクセスできるようだ。ただ、「くらしの情報」では対象が広いかと思う。

六車委員：SNSの運用状況はどうなっているか。

事務局：現在、広報に利用しているが、セキュリティの問題で利用できるサービスが限られている。

中西会長：情報更新する人材も必要だ。また、アクセス数は市ホームページの運用が基本になる。

伊藤委員：資料1-2の92頁で、施策2-2-3が新たに追加されたが、施策2-2-1の水辺環境の調査に位置付けていた取組内容等を集めて明示したということか。

事務局：お見込みのとおりで、構成を再編成し、記載内容についてもご意見を踏まえて改めたものである。

伊藤委員：再編成したということで認識した。

和田委員：関連して、「水環境の保全・回復」の“回復”について、野川の河川整備計画は東京都が実施するという前提で、回復というのは多自然型護岸にするということを示唆しているのか。

事務局：東京都の河川整備計画には生物多様性に配慮した整備をうたっているもので、それを促進するという考え方である。

和田委員：あくまでも東京都が整備を進めるので、市は東京都に早期整備を働きかける、ということ強調するのであれば、パブリック・コメントに対しては、東京都に要望して多自然型護岸に変更してもらおうとしている、という内容がふさわしいのではないか。市として目指しているのは多自然型護岸だということを強調しても良いかと思う。

事務局：東京都は整備計画で多自然型護岸を目指していると位置づけられているので、パブリック・コメントの中で多自然型護岸にしてほしいという声に対しては、整備計画が実現した場合は多自然型護岸になると認識しており、市としてもそのように整備計画が実行されることを期待しているとの考え方を示している。現段階ではそこからさらに踏み込むことは難しいので、この表現が最大限である。

中西会長：施策2-2-3についても、「取組を推進する」という表現であり、市のできることとしては、気運醸成などになるかと思う。東京都の事業になるので、同じ方向に向かって市のできる

ことを推進するということになるのだろう。

和田委員：野川や砂川用水など親水性の話はあまり書かない方が良いのではと前回も言ったが、私自身は野川に対して親水性や多自然型の整備は必要ないと考えている。こういった項目を野川について考えている人が見たら、“計画に記載があるのだからもっとしっかりやるべき”“というように捉えられるのではないか。そういった方々に野川について記載があるということを回答するという事は、良い面もあると思うが、書いたからには、推進する責務が発生してしまう。

中西会長：今までの環境基本計画と大きく変更されているわけではない。

事務局：現計画においても続けてきた早期整備に向けた気運醸成の取組みについて、今後も続けていくというものになる。

中西会長：多自然型で整備をするという方針にはなっている。方向性としては同じ方向を向いているが、それがいつ着手になるのかが問題かと思う。そこに至るまでどうするかという書き方は変わっていない。

施策2-2-3は「水環境の保全・回復」とあり、野川だけでなく湧水など水辺環境の施策を特出したことは意義があると思う。施策の中に「水」の文言がないのは、環境としては足りていない印象があった。また、戦略0を一番前にする構成にしたので、70、71頁が感覚的に見やすくなった。ただ、表記の仕方として、基本方針0-2といった書き方に多少違和感はあるが、私はこの書き方で良いかと思う。

(2) 第三次国分寺市環境基本計画実施計画の検討について

●事務局より資料2を説明

中西会長：実施計画について、より具体的にした方が良いという意見を踏まえ、文言や追加の施策も入れている。資料2について質問や意見はあるか。

和田委員：4頁の内容の見方の表現について、戦略1を例に書かれているが、5頁からは戦略0のことが書かれている。戦略0の順番を変更し、最初に持ってくるなら、見方の例も戦略0にした方が誤解を招かないと思う。

中西会長：見方を説明しているページになるが、戦略1の例示で表現すると混乱するかもしれない。

和田委員：戦略1をコピーして表記するのではなく、ここは戦略0を書いているといった表現や、具体的に目標を書いているといった、数字ではなく何を書いているかということの説明するようにした方が分かりやすいかと思う。

事務局：見方については、戦略0から記載した方が分かりやすいかと思うので、修正を行いたいと思う。

中西会長：枠か何かで囲めば、内容、見方、凡例ということが分かりやすくなるかと思う。また、10頁の2段書きの目標管理の部分で、令和7年度は15.0%だが、統計データの集計の都合上2年後にしか集計した数字が出てこないということで、令和7年度の目標は15.0%ではあるが、実質的に評価をするのは、令和5年度の10.0%という理解で合っているか。

事務局：お見込みのとおりである。

古後委員：統計データの出典元はオール東京62が出しているデータだと思うが、上段が令和7年度15%で、実際には2年後の令和9年度にデータが出ることが、資料のみでは読み取

れなかった。そのため、1番下の注釈は分かりやすく大きく書いた方が良い。このままだと誤解を招くかと思う。

中西会長：どうしても数値の公表が2年遅れてしまうため、2年前の数値しか出てこない。

事務局：注釈が一番下で分かりづらいと思う。掲載位置や文字の大きさを見やすいように修正する。

中西会長：例えば内容の見方のところに説明があっても良いかもしれない。実施計画を運用したとき、参照しながら年次の取組を進めていく流れになるかと思う。その中で問題点や改善点が生じた場合はどんどん見直していくという認識で良いかと思う。

大友委員：実施計画はカラー刷りになるのか。カラーであれば、例えば引き出しの黒丸が線でつながっている部分を色分けした矢印にするなど分かりやすくできる。

事務局：カラーを想定している。表現について参考にさせていただく。

中西会長：内容の見方は、矢印で「戦略1の成果指標を示している」など、もう少し文章で説明をした方が良いかと思う。

六車委員：実際に書いてある内容を引用する方が見やすいという感覚もあると思う。戦略1と書いてあれば、実際に10頁を見てこうやって見るのだというように見たほうが分かりやすい人もいるかと思う。ただ、4頁と10頁では少し内容が違うので、全く同じ内容にした方が良いと思う。※印の説明文もここで示せば11ページの※印もいらなくなるのではないか。

中西会長：このページは戦略1の説明ではなく、前後の説明になるので、一般化されたページのほうが良いかと思う。一般的な図鑑でも、見方のページに実際のページが引用されているが、内容の見方について説明していると分かれば良い。戦略1なら2段書きの説明がしやすい。文字が見づらくなっても、実際よりも小さくして、周りの説明や()を大きくするなどして、見方の説明を分かりやすくすることが良いのではないか。

六車委員：そうした理由で戦略1をここで例示したということなら理解できる。カラーがうまく項目で分かれていて綺麗だと思う。

事務局：いただいた意見を踏まえて、一般化した内容か、具体的に引用した内容か、色々試して誤解が無いような分かりやすい表記にしたいと思う。

(休憩)

古後委員：資料1-2の11頁のデータの出典はどこか。何年前のものが公表されるのか。

事務局：環境省の自治体排出カルテである。2年前のものが公表される。

大野副会長：20頁施策2-2-1①について、樹林地について記載があるが、恋ヶ窪樹林地が地図にはないのでどこか分からない。せめて基本計画にあれば良いが、どこにあるかは示した方が良い。また、23頁の一番下、③の文章の終わりにある、「用水を含む開発事業があった場合は、親水化整備について事業者と協議します。」という文言の意味が分からない。

事務局：基本計画のほうに地図があるので、そちらと合わせて載せるようにしたい。

大野副会長：「恋ヶ窪緑地」と「恋ヶ窪樹林地」と名称が微妙に違うので統一した方が良い。

事務局：砂川用水については、宅地の中を流れているので、開発事業の際は開渠にするようお願いをしており、その取組を記載したものである。

大野委員：活動している立場では何のことか具体的に分からない。

中西会長：具体的に開発事業を行う主体というのはどこか。

- 事務局：民間の開発事業者が行う。砂川用水の周りは農家が多く、土地利用の関係で暗渠となっている部分があるが、宅地の分譲の際など、開渠にするように開発時にお願いするものである。宅地の緑を用水に寄せたり、歩けるようにすることなども、協議をしている場合がある。
- 大野副会長：そういうことであれば、親水化とのイメージと合っていなかった。親水化というより復元の意味合いのほうが強いと思う。
- 事務局：協議やお願いはしているものの、実際どうなるかは状況による。復元や開渠化などの言い方を検討する。
- 和田委員：「親水化」とは、人が水に入れなくても、水に親しむという意味合いなら開渠しただけでも親水化となると思う。行政用語としても「親水化」なら問題ないかと思うが、市民の方に誤解を招くということであれば、親水化という表現はない方が良く思う。
- 大野副会長：水路管理者の緑と公園課と議論をする場合、「親水化」は、階段を作って遊べるようにすることなどを指している。
- 事務局：実施計画自体は、市民にも見ていただいて、具体的に進行具合を理解していただくことが1番の目的のため、伝わりやすいこと、また緑の基本計画に同じような施策・取組があるため、その整合も図りながら、表現を工夫したいと思う。

(3) 答申(案)について

(事務局より参考資料1、2を説明)

- 中西会長：審議会にて議論してきた内容をまとめたものになる。ほかに追加した方がよい意見などがあれば意見等をお願いする
- 古後委員：記載するかは調整いただきたいが、調布市のようにメールマガジンなどを使って、情報発信はプッシュ型を入れるなど工夫をすると良いかと思う。
- 中西会長：見に来る人に分かりやすく可視化するだけでなくプッシュ型が良いと思う。
- 大野副会長：市から安心安全メールが毎日のように届く。環境分野にも広げられれば良いと思う。
- 事務局：プッシュ型については、以前からやりたいと思い、メールマガジンやごみアプリなどとの連携について検討していた。しかし現段階で確たる目途がたっていないため、表現を丸めて基本計画に記載した経緯がある。この意見に含めるのであれば後押しになるかと思う。
- 中西会長：具体的にそういった文言を入れることは可能か。1-(1)または2-(2)に、「戦略的な情報発信」や「プッシュ型の情報発信」、「市民への働きかけの手法を検討すること」といったように書くことを検討してもらえればと思う。
- 和田委員：3頁の「安心安全の市民生活」の中で、大気と水質はあるが、生きものについてもモニタリングに入れたほうが生物多様性の地域戦略のことも考えると、バランスがとれるのではないか。
- 中西会長：国分寺市にとって緑や生きものは触れたほうが良いと思う。ただ枕詞の安全で安心な市民生活とはそぐわないと思う。
- 和田委員：文言は調整してもらえたらと思っているが、自然と生きもの多様な繋がり、といった文言をそのまま使う必要はないが、大気と水質は当然入れつつ生きものも入れたほうが良い。
- 六車委員：緑も入れてほしい。

和田委員：みどり率の数値を確認しているので入れられると思うが、それにモニタリングという言葉
を適用して良いかは疑問だ。

中西会長：長期的に見ていくというイメージだとは思う。(2)に含まれているのは大気と水だけでは
なく、生きものと緑も含めて、分かりやすく示すということだと思ふ。生きものや緑地も
ここに入れておくべきかと思ふ。これらのデータを追いかけて取っていくというのはモニ
タリングという文言で包括できるかと思ふ。

伊藤委員：「SDGs」や「持続可能な」など、枕詞にすることで全て含めることができるのではな
いか。

中西会長：「持続可能な」とすると大気、水質、生物も緑地も含まれるのではないか。持続可能な市
民生活を確保するためにあらゆる環境の要素について発信していく、としたら良い。
具体的でなくても網羅的にはなったかと思ふ。良ければ整えて最終的な答申案を提出した
いと思ふ。最終的な答申案は会長副会長一任してもらってよろしいか。

委員各位：異論なし

3. その他

(1) 今後の予定

(事務局より参考資料3を説明)

事務局：2月25日までに答申内容を確定したい。庁内検討して3月末に計画決定する。
最終的に冊子になるのは4月以降で、市民にはHPで公表と考えている。

4. 閉会

中西会長：ようやく基本計画と実施計画が策定となる。長きに渡りご協力感謝する。これにて令和6
年第5回国分寺市環境審議会を閉会する。